

造園業を軸に伐採工事、緑化工事、資源のリサイクル、資材販売店の運営など事業を多角化し、木質資源を無駄なく活用する。



伐採工事の現場

どんな事業をされていますか？

造園業といえば個人邸の庭の植栽や剪定を連想しがちだが、当社では、工業団地、商業施設、医療施設の開発に関わる伐採工事や緑化工事などを建設会社から請け負っており、売上の大半を占めるメインの事業となっている。その他には、公園の樹木や街路樹の伐採、剪定、植栽や球技場の芝生の管理を行っている。また、これらの事業により発生する生木や枝葉をチップ化し、農地の土壌改良に活用したりバイオマス発電の燃料にする等、木質資源を有効活用することで、循環型社会の実現の一翼を担っている。



「ふーまの店」で販売している土木杭・栈木・マキ



屋外にある芝生の展示・販売場

事業の特長や強みは何ですか？

造園業の域を超えて多種多様な作業機械を保有していることが強みであり、自走式も含め複数の破砕機、バックホー、アームロール、パッカー車などを保有している。造園だけでなく、土木や林業関連の工事にもかかわってきたことが保有台数の充実につながっている。一社で工事を完結することができる機動力の高さが評価され、継続的に仕事を受注できている。起業当初は、ゴルフ場の芝張を中心にやっていたが、その後、顧客のニーズに合わせる形で、樹木の植栽、造園業へと事業を変えてきた。造園業で培った技術力を活かすことで、伐採工事、緑化工事、リサイクル事業等のスケールの大きな事業へ展開していくことができている。

代表的な製品、サービス、設備などは？

土木・造園資材の小売部門として「ふーまの店」を運営しており、建設会社や造園会社が各社ごとに仕入れていた資材を当社で一括購入し、商品コストを抑えて販売している。現在では、芝生等の造園用資材や、県産材の土木杭や丸太柵、堆肥となる木質チップ、有機質の多い植栽土など品揃えが多岐にわたり、他店では購入できない商品を取扱うことで、価値を認めてもらっている。また、この店舗に顧客が集まることで情報が行き交う場所となり、その情報を活用し仕事の受注を増やすことができている。

今後の展望をお聞かせください。

近隣の木質バイオマス発電所の稼働により、燃料となるチップの不足が懸念されているが、その解消に向けて、2022年から静岡県と共同で早生樹であるユーカリの育成と資源化に取り組んでいる。燃料用チップ以外にも、角材や精油（アロマ）、生花の活用など、様々な用途の可能性を探っている段階である。また、近年増加する荒廃茶園を試験地として利用することで、農地の新たな有効活用の可能性を広げ、社会問題の解決に繋がりたいと考えている。循環型社会の実現に向けて、企業も行政も住民も、それぞれの立場から、協力しあうことが求められている中で、当社が培ってきたノウハウや技術力やを結集し、社会から求められる存在であり続けることが使命であると考えている。



リサイクルセンターで稼働している大型の破砕機



緑との共生を理念に
今後の事業展開を語る
高野智良 取締役

取材日：令和7年1月14日

太田川木材協同組合

株式会社 八ヶ代造園

代表取締役 八ヶ代幸一

静岡県袋井市田町2丁目11-13

TEL. 0538-43-4355 FAX. 0538-42-8399

Mail : turf@yagashiro-ls.co.jp

創業：1977年4月

事業内容：庭木の植栽・剪定、公園緑化工事・管理、造成工事、樹木伐採・破砕、産業廃棄物（木くず）処理、芝生グラウンド管理、造園資材等販売、早生樹育成
従業員数：24人

年間売上高：13億円（2023年度）

許認可等：建設業許可、造園工事業許可、とび・土工・土工工事業許可、産業廃棄物及び収集運搬業許可

URL : <https://www.yagashiro-ls.co.jp>



半年で5mを超える樹高に成長したユーカリ